

クレセント® 1キロ粒剤75

■種類名：オキサジクロメホン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル粒剤
 ■有効成分：オキサジクロメホン-----0.80%
 クロメプロップ-----3.5%
 ベンスルフロンメチル-----0.75%

■登録番号：第23271号（北興産業登録）
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2013.05.29
 ■性状：類白色細粒
 ■有効年限：4年
 ■包装：1kg×12袋

【特長】

- ノビエ2. 5葉期まで使用できる一発処理除草剤。
- 有効成分クロメプロップの働きにより、SU抵抗性雑草に高い効果を示す。
- ノビエの発生を長期間抑える。
- SU抵抗性雑草(ホタルイ、アゼナ類など)にも効果を示す。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ、ウリカワ ミズガヤツリ(東北) ヘラオモダカ クログワイ(東北) オモダカ、ヒルムシロ、セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	壤土～ 埴土	1kg /10a	1回	田植同時 散布機で 施用	北海道 東北
		移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで				湛水散布 又は無人 ヘリコプ ターによ る散布	
		移植後5日～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	砂壤土				

オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	クロメプロップを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの2. 5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、ヘラオモダカは発生始期まで、セリは再生前から再生始期まで、クログワイ、オモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
クログワイ、オモダカは発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植え付けが均一となるように代かきを丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ(スピナ)の回転数を低速に調整すること。
 - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- 以下のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわい等の生育を阻害する恐れがあるので、これらの生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。

- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。散布後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。